

1. 基本情報

- (1) 国名：タジキスタン共和国（以下、「タジキスタン」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ソグド州スピタメン地区
- (3) 案件名：カスピ海ルート上のスピタメン税関における貨物検査機材整備計画
(The Project for the Improvement of Freight-scanning Equipment at the Spitamen Customs on the Trans-caspian International Transport Route)
- (4) 計画の要約：本計画は、カスピ海ルート上に所在するタジキスタン北部ソグド州のスピタメン税関において、大型鉄道貨物検査用の X 線機材を整備することにより、税関検査能力の強化及び通関手続きの迅速化を通じた密輸取締強化及び貿易円滑化の両立を図り、もってカスピ海ルートの連結性向上に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

タジキスタンを含む中央アジア地域は、ユーラシアの中央のに位置し、隣国アフガニスタンの自立と安定に向けて積極的な役割を果たす等国際社会の取組において、同国の安定は不可欠である。また、ロシアによるウクライナ侵略以降、ロシアを経由しない中央アジア・欧州間の物流ルートであるカスピ海ルートはの重要性が高まっている。

こうした中、アフガニスタン・中央アジアを結ぶ結節点であるタジキスタンの税関設備を整備することは、カスピ海ルートの安全性・利便性の向上、中央アジア地域の運輸・物流環境の改善に寄与する他、インド太平洋地域との連結性強化の可能性を開くものであり、タジキスタンの経済発展、安定に資する取組といえる。

タジキスタンは、ソビエト連邦崩壊後中央アジア諸国の中で唯一大規模な内戦が行われた事もあり中央アジア地域でも最も貧しい国である。貧困を原因とした青年層に対する暴力的過激主義の蔓延、アフガニスタンからの麻薬や銃火器の密輸の通過点になるなど、タジクの国境管理に対する支援の重要性は高い。

また、ロシアによるウクライナ侵略下で、従前ロシアの勢力圏であったタジキスタンにおいても中国の影響力が増大し巨額の借款などが行われており、タジキスタンが所謂「債務の罠」に陥る可能性も有りうる。

加えて、我が国は、対中央アジア外交の基本方針として、中央アジア諸国諸国の、開かれ、安定し、持続可能な発展を後押しし、地域協力の触媒としての役割を果たしていくことを表明しているところ、2022 年 12 月の「中央アジア＋日本」対話第 9 回外相会合の共同声明では、海への出口を模索する運輸・物流の各分野での協力が重要であることで一致しており、本案件はこれを具体的にフォローアップするものである。

- (2) タジキスタンにおける物流・税関セクター及び中央アジア地域の開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ユーラシア大陸の東西を結ぶ物流ルートは、中国からカザフスタン、ロシアを経て欧州に至るルート（北回廊）が主であったが、2022 年 2 月のロシアによるウクライナ侵略以降、対露経済制裁の影響を受けて不安定化している。このため、ロシアを経由せず、

中央アジアからカスピ海を横断し、コーカサス地域を通過して黒海へ至るカスピ海横断国際輸送ルート（以下、「カスピ海ルート」という。）への注目が高まっている。ロシア経由の中国－欧州間輸送量が2021年から2022年にかけて31.9%減少する一方、同期間のカスピ海ルートの貨物輸送量は2.5倍（EBRD、2023年6月）増加した。欧州復興開発銀行（EBRD）は、2030年にはコンテナ貨物だけでも現在の6倍に増加すると予測している。カスピ海ルートのうち南部を通過する物流ルートは、中央アジアの内陸国にとって、周辺国や欧州と連結するために不可欠な物流ルートである。

タジキスタンの北部ソグド州スピタメン地区の鉄道国境税関所（以下、「スピタメン税関」という。）は、カスピ海ルートの南部ルートの国際鉄道路線上に位置しており、鉄道が輸出入貨物輸送手段の77%（2018年）を占めるタジキスタンでは、同鉄道路線が国際的な物流の要衝となっている。

スピタメン税関では1日あたり最大250～300両の貨物車両が通過するが、大型X線検査機材が未導入であることから、積載された全ての貨物について法定作業時間内に検査を終えることが困難であり、検査の迅速化が求められている。一方、密輸品の取締りも不十分な状態であるが、タジキスタン政府は隣接するアフガニスタンで生産された麻薬や、イスラム過激派に流れるリスクのある銃器の通過を警戒しており、国境における水際対策の強化も必要となっている。

タジキスタン政府が掲げる国家開発計画では、通過国としての物流能力強化が優先的な国策として掲げられ、さらに「税関発展の中期プログラム 2020 - 2024」では、国境での迅速な通関手続きを可能とする標準化・簡素化された透明性のある税関手続を実現することの重要性が示されている。

カスピ海ルートの物流能力の強化に向け、EUは、2023年にEBRDに委託して「欧州・中央アジア間持続可能な運輸接続に関する研究」を実施し、33のインフラ案件と7つのソフト支援を提案しているが、本計画は、EUの事業と協働しておこなうものである。

「カスピ海ルート上のスピタメン税関における貨物検査機材整備計画」は、スピタメン税関を通過する大型鉄道貨物の検査用X線機材の整備により、カスピ海ルートの一部を構成する交通の要衝における貨物検査の迅速化と違法貨物の摘発率の向上を図り、もってカスピ海ルートの連結性向上に寄与するものである。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

①計画内容

ア) 機材等の内容

鉄道貨物検査用大型X線機材2台、防護壁、シェルター（監視室）

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、入札補助、調達監理、機材の運用・維持管理に係る研修

②期待される開発効果

スピタメン税関における通関手続きの迅速化（1編成30両程度のものあたりの検査時間（分）180分→20分）及び税関検査能力の強化により、密輸取締強化と貿易円滑化の両立を通じてカスピ海ルートの連結性強化への貢献が期待される。

③計画実施機関／実施体制：タジキスタン大統領府関税局

④他機関との連携・役割分担：EU 及び EBRD は、カスピ海ルートにおける鉄道等の輸送インフラの増強を支援している。一方、国境における貨物の効率的な通過に関し、米国国際開発庁（USAID）は税関検査のデジタル化等を支援する一方で、我が国は検査機材の導入やリスク管理の実施支援を行う。

⑤運営／維持管理体制：整備された機材による日常的な X 線検査の実施及び、機材の保守管理はタジキスタン関税局が担う。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類：C
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

ウズベキスタン共和国向け無償資金協力「国境税関大型貨物用検査機材整備計画（第一次）（第二次）」（事後評価年度 2017 年）の事後評価等では、高機能の機材を供与するにあたり、実施機関が当該機材の故障時に診断や修理を依頼できるよう、調達時に製造業者との約定を取り付けておくべきであるとの教訓が得られている。

上述の教訓から、本計画では、税関の維持管理体制及び現地における製造業者の保守サービスの可否とその内容について協力準備調査で把握するとともに、現地での保守サービスの実施について入札条件として設定することを検討する。必要に応じ、ソフトコンポーネント等で維持管理体制の構築及び運営強化のための指導を行う。

以 上

[別添資料] 地図「カスピ海ルート上のスピタメン税関における貨物検査機材整備計画」

地図「カスピ海ルート上のスピタメン税関における貨物検査機材整備計画」

カスピ海ルート全体図



タジキスタン全土



出典：

（上図）EBRD「Sustainable transport connections between Europe and Central Asia (2023)」より JICA 作成

（下図）United Nations ([Tajikistan | Geospatial, location data for a better world \(un.org\)](https://www.un.org/geospatial/))より JICA 作成